

「よく学び 心ゆたかに やりぬく子」



新座小だより



開校23年目

埼玉県新座市新座 3-4-1 TEL 048-478-2760
<http://www.c-niiza.ed.jp/e-niiza>

令和8年度5月号
児童数：298名

心と心をつなぐ「あいさつ」

校長 小俣 優子

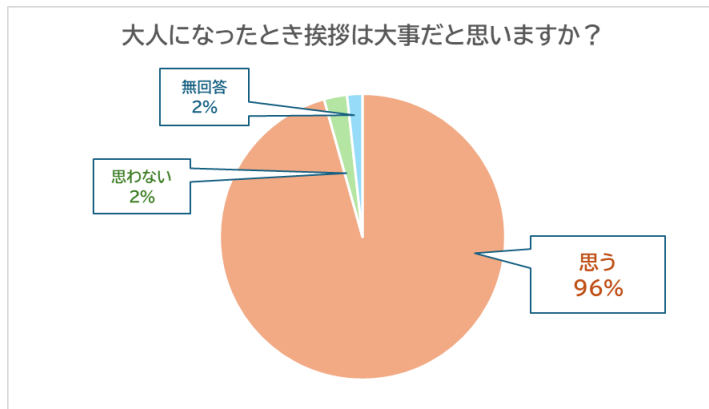
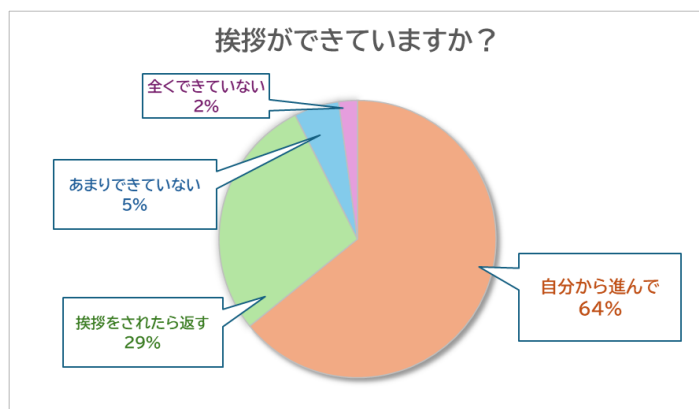


1年生交通安全教室

◆挨拶アンケートの結果より

先日、2年生以上の児童に挨拶についてのアンケートをとりました。結果は以下の通りで、「自分から進んで挨拶をしている」と感じている児童が6割以上いました。「自分から進んではできないけれど、挨拶をされたら返している」という児童が3割近くおり、9割近い児童が挨拶について、何らかの形でできていると感じているようでした。また、9割以上の児童が「大人になったときに挨拶は大事だと思う」と答えていました。

そのほか、「挨拶をされたらどう感じるか」という問いについては、「うれしい」「気持ちがほかほかする」「がんばろうという気持ちになる」などの意見が多く、中には「返したいけど恥ずかしくて言えない」「少し緊張する」といった意見もありました。



昨年度の学校評価等から、本校の課題の一つに「挨拶ができる児童を育てる」ということが上げられます。実際に挨拶ができているかどうかについては、児童のアンケート結果と大人が感じることとの間に少し差があるようですが、多くの子供が挨拶の重要性については認識しているようです。

新年度になり最初のお話朝会で、挨拶について話をしました。挨拶をされると、された側はうれしい気分が良くなるけれど、実は自分にとってもプラスになるということを伝えました。朝の「おはよう（ございます）」の一言は、ただの言葉としてだけでなく、相手との距離を縮め心と心をつなぐ架け橋になります。挨拶は相手の存在を認め思いやる心の表れで、それと同時に相手からも認められ、信頼関係を築くことに繋がります。

◆挨拶が自然に交わせる安心できる環境づくり

子供たちが自然に挨拶を交わせる環境は、安心と温かさに満ちた場所となります。学校では「おはよう（ございます）」「ありがとう（ございます）」「さようなら」などの挨拶が習慣づくよう、引き続き指導を行ってまいります。ご家庭でも日常生活の中で「おはよう」「いただきます」「ごちそうさま」「いってきます」「おやすみなさい」など、挨拶の大切さを共有していただくと幸いです。

よろしくお願いいたします。